

## H28年度 校内研究のまとめ

### 1 校内研究テーマ

「児童生徒が主体的に学ぶことができる授業づくり」

### 2 研究仮説

児童生徒の実態や教育的ニーズ、主体的に取り組む姿を検討して児童生徒理解を深め、指導へのアプローチを工夫することで主体的に学ぶ授業作りができるのではないかと考える。

### 3 研究の内容

児童生徒が主体的に学ぶことができる授業を作るためのアプローチについて考える。

### 4 研究の方法

- (1) 課題意識を持った教科・領域ごとにチームを編成し、仮説を立てて研究を進める。
- (2) 紙面によるまとめや発表会で各チームの研究内容を共有する。

### 5 研究の実際

#### ◎小学部

| 教科・領域  | テーマ   |
|--------|---|
| 生活単元学習 | 児童が主体的に学ぶことができる生活単元学習を目指して<br>～場の設定や教材・教具の工夫～ |
| こくご    | 生活に生きる文字の学習                                   |
| 国語     | 読み書きができる平仮名を増やすための授業作り                        |
| 算数     | 「かず」を日常生活に生かしていくための支援について                     |
| 自立活動①  | 児童が主体的に活動できる授業づくり（実態把握と学習活動の展開）               |
| 自立活動②  | 身体の動きと各教科等との関連（自立活動の視点での日常生活動作の向上）            |
| 自立活動③  | コミュニケーション手段の獲得について                            |

#### ◎中学部

| 教科・領域  | テーマ                                   |
|--------|---------------------------------------|
| 生活単元学習 | 生徒が主体的に授業に参加できる単元の検討～実態差のある学級での授業づくり～ |
| 保健体育   | 自分でわかってできる授業づくり                       |
| 自立活動   | 意欲的に学習に取り組むために～支援や教材の工夫～              |

◎高等部

| 教科・領域     | テーマ  |
|-----------|--|
| 生活単元学習    | 生活年齢にあった生活単元学習の授業づくりのあり方について                       |
| 国語        | 社会生活の中で生かせる「国語力」を育てる授業作り                           |
| 保健体育・類Ⅰ   | 運動に対して苦手意識をもった生徒が進んで運動に取り組むための支援                   |
| 保健体育・類Ⅱ   | 主体的に体を動かし、活動に取り組むことができる支援のあり方                      |
| 職業        | 自分で考え、自分で解決する職業科の授業づくり<br>～キャリアノートを使って～            |
| 作業学習①     | 仲間と共に自分の力を発揮し、成就感がもてる授業やかかわりを目指そう                  |
| 作業学習②     | 『～Change あともう少し』～みんな、いいものは持っている。どう引き出すか。みんなで考えてみる～ |
| 自立活動・類ⅡB  | 主体的なコミュニケーションの能力を高めるためには<br>～ 日常生活での活用をめざした指導 ～    |
| 自立活動・類ⅡCD | 生徒が興味・関心をもって取り組める活動を見出すために                         |

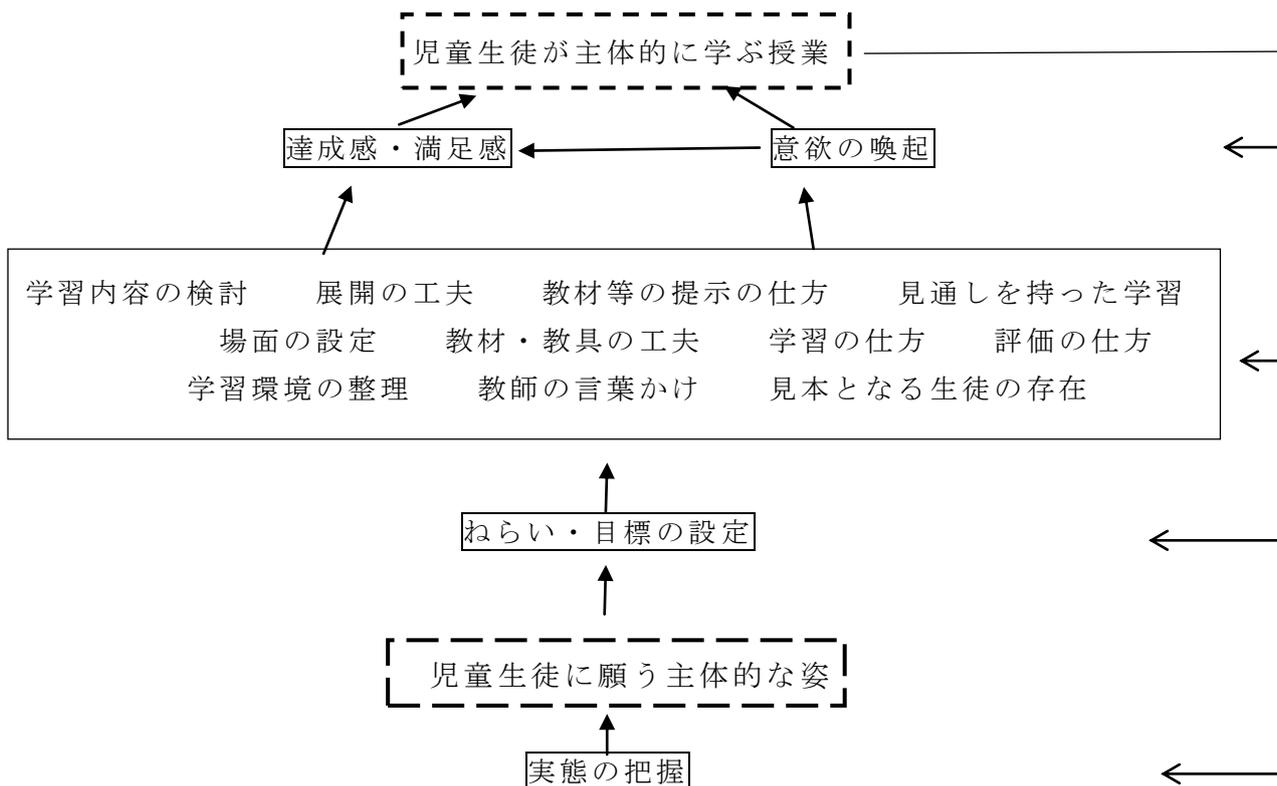
◎家庭訪問教育

| 教科・領域 | テーマ                                     |
|-------|---|
| 自立活動  | 児童生徒が教師とのやりとりを通して、興味・関心をもって活動しようとする授業作り |

6 研究の成果

20チームの実践の成果は、次のようにまとめられる。

- ・焦点を絞って児童生徒の実態を把握し、児童生徒に願う主体的に取り組む姿のイメージを持った。それにより、ねらいや手立てが明確になった。
- ・やってみたいと意欲を喚起する学習活動に取り組み、「できた」「楽しかった」ことが達成感、満足感となり課題解決につながった。
- ・自分の学習の成果を「できた」と自分で評価することが意欲につながる。
- ・目標達成に向けた学習内容や展開を工夫すること、学習の仕方（繰り返し、スモールステップなど）を工夫したり見通しを持たせたりすることが意欲につながった。
- ・視覚的なカードなど実態に応じた教材・教具を工夫すること、さらに、それに取り組む環境やそれを提示するタイミング、その時の教師の意図的な言葉かけが目標の達成につながった。



児童生徒が主体的に取り組みながら目標の達成を目指す授業を作っていくために、今回は様々な方向からアプローチをして実践が進められた。それぞれのアプローチは、前の図のようにつながっている。

基本となることは、児童生徒の実態の的確な把握である。それによって児童生徒に願う主体的な姿が明確となり、ねらいや目標が設定され、それを達成するための手立てを様々な角度から考えていく。学習を通して意欲が喚起され、達成感を得ることが「やってみよう」という気持ちにつながっていった。さまざまなアプローチの改善をしながら進めることで、より児童生徒が主体的に学ぶことができる授業になっていくと考える。

また、教科・領域の学習内容を習得するための教材・教具以外のアプローチについては、研究の成果が、教科・領域は違っても活かすことができるものである。あるチームで課題となったことが、他のチームの成果を参考にすることで解決に導かれることもあった。

## 7 今後の課題

各チームからは、実態把握や達成感を持てる授業内容、教師のかかわり方、評価の仕方などがあがり、課題として一番多かったのは教材・教具の工夫である。各チームの実践には、自分の実践に活かせる成果が多くあることから、各チームの研究も参考にしながら課題解決に向け継続して実践していきたい。また多くの目で行う実態把握の大切さもチームでの研究により実感した。実態の見直しにより、新たに見えてくることをもとに、これまで使われてきた教材・教具等の系統性を整理するなどして、さらに手立てや教材の工夫をした授業作りを進めたい。